

住む人が開け閉めすることで、 建物に表情が出るルーバー兩戸。

カーサ・トリアーデ CASA TRIADE — 越谷市



¥123,000 60.77㎡

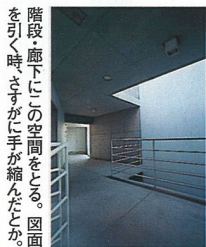
「カーサ・トリアーデ」はスペイン語で「3つの家」という意味。右手に3つめの「家」部分があり、雁行を取る形となる。



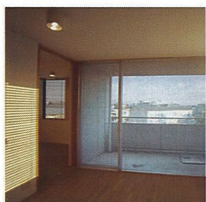
食器まですっかり納まるキッチン。設備はすべて電化で安全性が高い。



黄金比の窓。ルーバーはブラインドのよこに開閉し、壁に縞をつくる。

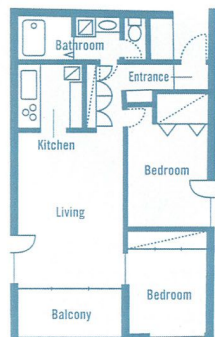


階段・廊下への空間を広く。図面を引く時、さすがに手が縮んだとか。



梁も柱も出さずに丸々ガラス。何といっても粋すらないのだ。

- 所在地/埼玉県越谷市蒲生寿町17 ●交通/東武伊勢佐木線蒲生駅1分
- 構造/RC造4階建 ●賃料/303号室12万3,000円 ●管理費/6,000円 ●敷金/3カ月 ●礼金/なし ●問い合わせ先/エイブル浦和サービスセンター ●048・831・8721
- カーサ・トリアーデは2000年、住宅金融公庫賞を受賞した。



道路から奥まって、3つの箱がずらした形に建っている。雁行というのだそうだ。雁の渡りの配列だ。互いに信頼し合って遠くまで飛んで行かねばならない時の位置取りである。

住むことのしつらえを、きちんと作るのが建築だ。

建物前面は、コンクリートに光調節と防犯を兼ねるアルミのルーバー兩戸が目立つ黄金比による構成だ。職人さんたちは脂汗だった。壁の端ギリギリから窓が始まる。枠もない。コンクリートから直接だ。水平垂直が正しくないと窓ははまらない。が、目的を説明すると、わかった！とやってくれた。「住む人が開け閉めすることで建物に表情が出る。夜はルーバーからもれた光が帰宅する人を迎えてくれる。そんな景色を作りたいかった」

何かをするときにどういう心境になり、どんな環境にいたいのか、人はそう変わらない。歴史がそれを教えている。

「空間は人が入って生き生きしてこそ、空間になる。納まるものが納まって、ホッと初めて人は自由に考え、動けるようになる。家具のレイアウトまで何パターンもシミュレートしました」

ベッドと椅子を持ち込むだけで住めるようになっていた。矢板さんは自分が住むことを基準として設計したのだ。

「図面を何枚も引きます。いろんな材料を入れてカタカタ挿す。と、スタスタとすべてが嵌る時がある」

気がつく、それが黄金比だった。「敷地の条件や、住むために必要なことをよく見て、キッチリ設計していくことがデザインで、その中に必ずよい答えがあるはず」

施工直後に見に来たある人は言った。毒のない建築だな。

「いいおじさん、つて言われて、おしまいっていうのと同じですね。でも僕は、脱nLDKは詭弁だと思っんです。LDKは何かってことも、まだよく考えられていないのですから」



Hisaaki Yaita

1955年生まれ。東京大学大学院修士課程修了後、谷口建築設計研究所を経て、94年、矢板久明建築設計研究所設立。「彩の国さいたま景観賞」などを受賞。

pen

with New Attitude

2/15
2001 No.54
490
yen

首都圏・関西

人気建築家が設計した、

美しいマンション

